

韓国薬学研修報告

上田梨奈
千葉有紀子
吉田弥礼

< 8月7日：大韓医院（医学博物館） >

ソウル大学医学部付属病院の敷地内にある大韓医院を見学した。大韓医院は、歴史を感じる時計塔のある赤煉瓦造りで二階が博物館として開放されていた。そこは、韓国で初めて設立された西洋医学の病院で、韓国で西洋医学導入当時使われていた注射器や眼鏡、聴診器など、医療の場で使われる様々な器具が展示されており、西洋医学が韓国に入ってきた近代から現代に至る医学史を学ぶことができた。



ソウル大学医学博物館内

ソウル大学が日本統治時代に設立されたものであったため、多くの日本人が近代韓国の医学に携わっており、当時はこの大学も学生、教員ともに日本人が多かったようである。展示されていた当時の資料には多くの日本人の名前が記され、日本語の資料もいくつか残されていて、そこから当時多くの日本人が韓国に来て医学研究に従事していたことが伺えた。麻酔に関する展示室

では、記録に残るものとしては世界で初めて全身麻酔による乳がんの手術を成功させたと言われる華岡青洲についての展示も見ることができた。



診療所を再現した展示ブース



ソウル大学医学博物館

残念ながら彼が調合した麻酔薬である通仙散の現物は残されておらず、正確な調合分量が記録されたものも残っていない。西洋医学における初めての麻酔治療はアメリカ

のウィリアム・モートンによるジエチルエーテルを用いた麻酔手術であり、それに関する展示もあった。麻酔を使わずに手術をしていた当時の四肢切断手術の様子を表した絵が展示されておりとても印象的だった。
< 8月8日：ソウル薬令市、ソウル薬令市韓医薬博物館 >

ソウル薬令市の最寄駅では、改札口にもさまざまな生薬や、それらを韓方剤に加工するための伝統的な器具が展示されていた。ソウル薬令市は韓国で流通されている薬材の70%を処理する韓国最大の薬令市であり韓方産業が密集している韓医学の一番地である。近年韓医薬の栽培、製造、流通などに対する政府の管理システムが構築されて、安定性が大きく向上しており、韓医薬学の治療法と理論に対する科学的究明がなされている。



市場の様子

ソウル薬令市では、生薬学の講義で学習した様々な生薬が売られていた。日本で使われる漢方薬は、ドラッグストア等で手に入れることができる散剤や丸剤の印象が強いが、今回訪れた韓方市場では、生薬そのものが店先に所狭しと並べて売られており、日本とはだいぶ異なるものであった。生薬の中でも高級品である大きな鹿の角が店先に積み重ねるように売られていたり、生薬の原料となる植物が店先で天日干しされて

いる様子は日本ではあまり見られない光景のためとても興味深く感じた。量り売りが多く、夏の蒸し暑い昼間にもかかわらず多くの人が行き交い活気にあふれた市場であった。



韓方博物館（昔の薬問屋）

同日、市場の近隣にあるソウル薬令市韓医薬博物館を見学した。この博物館では、近代以前から朝鮮半島で用いられてきた韓民族固有の医学である韓医学に関する資料や道具、生薬などが展示されており、韓医学の理論や特徴を学び、理解することができる。展示室には伝統的な生薬の栽培、採取、加工の様子を模したジオラマや、現在も流通している一般的な生薬、動物由来の生薬や毒物など多種の生薬が展示されていた。韓方茶であるゴボウ茶とシナモン茶を試飲させてもらった。韓方茶の原料である生薬には独特な風味があるため飲みにくい印象であったが、実際に飲んでみるととても飲みやすかった。また、4種類の生薬を混ぜ合わせて入浴剤を作る体験もさせてもらった。大学の講義では主に疾患の治療としての生薬の効能を中心に学んでいたが、今回の見学と体験を通して生薬は様々な使い方がされており疾患の治療だけでなく、体質の改善にも用いられるということが理解できた。

このように韓国では、西洋医学による医療だけでなく、近代以前から続く東洋医学に基づく韓方医療や韓方薬も一般的に提供されており、その市場は日本と比べてかなり大きいと感じられた。日本においても大陸からもたらされた漢方医学が国内で発展し、現在でも漢方をはじめ鍼・灸など東洋医学に基づく治療が用いられることはあるが、ここまで大きな市場ではない。西洋医学が進歩し治療方法も世界基準で確立されていく世の中で、このように独自の文化に基づく医療も利用され進歩し続けているのは韓国における医療の大きな特徴であるように思う。



韓方博物館（伝統的な製薬道具）

< その他(文化体験・学生交流)>

韓医薬博物館見学後は、文化体験として韓国の民族衣装である韓服を試着した。韓服はチマと呼ばれるスカートとチョゴリと呼ばれる上着を組み合わせ着る。様々なデザインのものがあり、自分たちの好みものを選ぶことができた。その後、衣装を着たまま韓国の昔ながらの建物である韓屋を見学した。今回見学した北村韓屋村(ブッチョンハノンマウル)は、李氏朝鮮時代に高級住宅街だった地であるため王朝時代

の雰囲気と下町情緒あふれる街並みが残されている。現在も現地の人々が暮らしているため、静かな韓屋の伝統的な雰囲気を観賞することができた。



韓屋村にて記念撮影



学生交流

学生交流では、現地の薬学部生と英語で会話をし、大学での研究の話、勉強の大変さなど色々なお話をすることができ、時間があっという間に過ぎたように感じた。韓国研修前に日本で事前学習として李先生による韓国語講習を行ったおかげで、韓国語で自己紹介を行うこともできた。お互い母国語が英語ではない分、足りない語学力はボディランゲージなどでカバーしながら楽しく交流ができた。学生交流を通して、話

そうとする意志や気持ちが大切なのだと改めて学んだ。薬剤師として活躍するにあたって必要となるコミュニケーション力を身につけるためのとてもいい機会であった。今回交流をした韓国の学生は全員 6 年生であり、6 年生は現在実習期間中であった。彼らと話をすることで、実習を行う学年や期間、内容など日本とは違う所もあったが、

高い志を持ち研修に臨んでいる人が多くとても刺激を受けた。今回の経験を糧にして、これからの大学生活を送りたい。

最後に、本研修に当たって、多大なるご支援をいただいた愛知学院大学薬学会に心よりお礼を申し上げます。